

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：公益財団法人とよなか国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	外国人の若者の生活力を地域ではぐくむ日本語サポート事業～若者×ちいき×いばしょ～プログラム
事業の目的	外国人の若者に対する日本語学習支援を行い、生活の向上、自己実現及び地域社会への参加を支援する。また、日本語学習支援を担う人材の育成、関係機関・団体の間でのネットワークを形成することで、安定的・継続的な取組の実施環境を作り、日本語教育の体制整備を進める。 さらに具体的な目的としては以下の四つを掲げている。 1)外国人の若者が、安心して自らの生活上のニーズ(日本語・生活・労働など)を語り合い、相談できる「いばしょ(居場所)」を提供し、生活や自己表現に必要な日本語力を身につける。 2)(1)で身につけた日本語力を活用し、若者自身が地域社会とのつながりをつくる活動を企画・実施することで、自主的・自立的な地域社会への参加を促す。 3)ポスト若者世代である外国人の子どもを含む次世代に対する基礎的な日本語指導を体系的に行う人材養成、および、外国人の若者の特徴や社会課題をふまえて活動にあたるコーディネーター・サポーターの育成を行う。 4)外国人の若者世代が安心して社会生活を送ることができるよう、小中高校・大学、地域NPO、日本語指導者グループ、当事者グループなどからなる地域ネットワークを形成する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	人口約40万人、外国人約5千人の豊中市では、識字・日本語教育や日本語活動の歴史は長く、市民による自主的な活動も各地で行われている。公益財団法人とよなか国際交流協会(以下、協会)においても、地域の外国人親子づれや労働者など、大人・家族に向けた日本語活動を日曜日を含む週5日、市内の3カ所で開催している。また、豊中市との協働事業を経て2016年度より、外国人の子どもに対する「子ども日本語教室」の運営(教育委員会の委託事業)をボランティアグループと共にやっている。これらのことから、協会は地域の外国人住民に向けた日本語習得に一定の役割と成果を果たしているといえる。 一方、子どもと大人の「はざま」の世代で、就学と就労の移行期でもある若者世代の外国人が抱える多様な生活背景をふまえ、2013年度より「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託して、若者の生活日本語習得のためのプログラムを試行錯誤してきた。2013年度から2015年度までの3カ年では、日本語学習を通じた若者たちの表現活動や居場所づくり、地域イベントへの参加・企画運営など実施し、とよなか国際交流センター(以下、センター)を拠点とした若者の生活日本語習得や地域社会への参加の土壌づくりをおこなった。2015年度までの活動では、参加者のリピーター率や日本語学習意欲の向上などに高い評価を得るなど一定の成果はあったが、全日制以外の高校(定時制、通信制、夜間中学校など)に通う外国人の若者に対する生活日本語学習支援や、一人ひとりの若者に丁寧に対応するためにも活動の種類と内容の精査が必要だと感じた課題が見えてきた。 2016年度は、こうした新たな課題に対応するため、(取組1)全日制以外の高校に通う若者への日本語支援、(取組2)居場所づくりを通じた日本語交流、(取組3)支援に関わる人材養成、の3つの取り組みを実施してきた。これまでの3年をふまえ、新たに構成した取組であったが、新しい参加者層の開拓や活動の集約、研修による支援者の学びなど一定の成果は見られた。一方で、初年度としての課題も見えてきた。 まず取組1で課題となった点は、学校側との連携が運営委員会以外にあまり持たず、実質的な若者のニーズの把握が不十分であるという点である。生徒本人への活動周知だけでなく、学校に対しても生活日本語の重要性について広報するなどし、ニーズを掘り起こして把握することが重要であり、そのためにも、現場との連携が今後の課題であった。 次に取組2では、居場所づくりを通じた日本語交流の中でダンス等、試みとして様々な活動を行ったが、活動メニューとして確立して定例化することの必要性が明らかになってきた。また、外国人の若者は、社会生活を送る際の情報源や人的ネットワークが限られる場合があり、自らの課題や生きづらさの背景について自覚がないケースも多くみられたことから、日々の些細な疑問や質問をひろう形で、気軽に生活日本語相談に乗ることのできる環境が必要とされている実態が明らかになってきた。 最後に、取組3では、1年目ということもあり、幅広い分野の専門家からマイノリティの若者への支援や考え方などを学ぶ講座を中心に、日本語学習とのつながりを考える機会とした。それをうけ、2年目は、より専門的な外国人の若者支援の分野や若者への日本語指導などについての講義が必要だということが明らかになった。さらに、若者になる前の小中学生などのポスト若者世代に対する日本語教育から連続させて支援を行うことの重要性も再確認された。外国人の若者は学校を修了後、学校や地域とのつながりが希薄になりがちであり、日本語の学び直しや生活日本語についての必要性も感じてはいるが学習のきっかけや機会がつかめないことも多い。若者の日本語に関する課題は、学校修了時に関係を切らさないこと、学校在籍時の支援とつなげて行うことが重要であり、小中学生への日本語教育も合わせて考えていく必要があった。

本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	2016年度の課題を解決していくため、以下の3つの取組を実施した。 取組1「～ほっとにほんご・若者のたまりば～若者×いばしょ」では、若者の居場所づくりを通じた日本語能力の向上、日本語でのコミュニケーションスキルの習得を支援するが、2016年度の取組をふまえ、地域のさまざまな機関・団体・人材の協力の下、多様な活動メニューを確立し、さらにいつでも相談できる体制を整えた上で実施した。具体的には、「①にほんごde語ろう」における安心した日本語語りの場の設置、「②にほんご相談」における日本語を使った生活相談の場の提供して日本語の習得につなげた。なお、①、②の活動は定期的に同時開催した。 取組2「～つちかうにほんご・地域連携～若者×ちいき」では、高校生世代の若者に対する日本語指導に加え、効果的に日本語支援を行うための環境構築を行った。具体的には、「①にほんごサポート」において、全日制高校以外の学校に通う若者世代についての、体系的な日本語指導を実施した。 取組3「～つなげるにほんご・人材養成～子ども・若者日本語支援ボランティア養成講座」では、若者支援に関わるボランティア・コーディネーターの養成に加え、小中学生を対象にした体系的な日本語指導についての指導者養成も行った。「①ボランティア・コーディネーター養成講座」では、外国人の若者支援に携わる専門機関からの講師招聘や視察の実施を通じて、大阪・豊中の地域性を踏まえた独自の若者支援事業について考え、次世代を担う人材を養成した。 取組4「外国にルーツをもつ若者主催！ WAKAMONOフェスタ2017」では、主に取組1、取組2に参加した外国人の若者が主体となり、活動の実施状況や成果報告を行った。また、取組3についても取組の報告や今後の展望について発表する場を設けた。取組の開催にあたっては、外国人の若者が地域の人々に協力をおおぎながら催しを企画運営し、取組で習得した日本語を活用しながら、地域社会への参加を行った。フェスタのプログラム内容には、若者が親しみやすいコンテンツもとおりいれ、まだつながりをもていない外国人の若者当事者への活動周知も目的の一つとなった。
事業の実施期間	平成29年6月～平成30年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	榎井 緑	大阪大学未来共生機構
2	濱政 宏司	豊中市市民協働部くらし支援課
3	高橋 明	豊中市人権文化部人権政策課
4	金子 浩之	豊中市教育委員会人権教育課
5	門田 浩一	大阪府立桜塚高等学校定時制
6	白砂 明子	一般社団法人キャリアブリッジ
7	阿部 寛	社会福祉士
8	今井 貴代子	大阪大学未来共生機構
9	江尻 暁子	豊中市立第四中学校夜間学級
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年9月8日 (金) 13:00:～15:00	2時間	豊中市男女共同参画推進センターすてっぷ	榎井緑、濱政宏司、高橋明、門田浩一、白砂明子、今井貴代子、江尻咲子、山野上隆史、黒島トーマス友基	1. 今年度事業の報告及び意見交換 2. 関係機関との連携方法について
2	平成29年12月18日(月) 14:00:～16:00	2時間	とよなか国際交流センター	榎井緑、高橋明、門田浩一、今井貴代子、山野上隆史、黒島トーマス友基	1. 事業の報告及び意見交換 2. 関係機関との連携の報告及び意見交換
3	平成30年3月12日 (月) 14:00:～16:00	2時間	とよなか国際交流センター	今井貴代子、白砂明子、江尻咲子、金生連(金子委員代理)、阿部寛、山野上隆史、黒島トーマス友基	1. 事業の報告及び意見交換 2. 今年度の事業の振り返り

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	外国人の若者に関してこれまで実施してきたプロジェクトの中で培ってきたネットワークを活用しながら、地域における外国人支援、外国人教育、若者支援、就労支援などの各専門機関とのいっそうの連携を行った。具体的には、特に、若者支援相談を受ける機関や居場所づくりに取り組む団体(取組1)、高等学校を中心とした学校機関や地域教育委員会・地域外国人教育推進協議会(取組2)、日本語指導者や小中学校教育委員会(取組3)などとの連携・協力を得ながら、きめ細やかで幅広いネットワークづくりを実施した。また、日々の連携に加えて、情報共有などを実施し、意識的な連携体制の構築をおこなった。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーは、外国人の若者支援事業に3年以上関わりをもつ大学教員、コーディネーター、講師を中心に、豊中市や近隣地域の日本語教育の現状・課題を把握するメンバーで構成した。また、メンバーの半数は、当事業の対象となる若者世代のスタッフ、半数は若者より上の世代で構成し、若者世代に仲間(ピア)としての相談・助言を得たり、年長世代に目標となる人(ロールモデル)や人生の相談役として話を聴いたり、と役割を分担しながら、多面的に事業の運営にあたることができた。コーディネーターは、各活動の講師や日本語指導者と連携をとりながら、活動ごとの課題の把握や認識を深め、活動目標の設定や取組のデザインを進めていった。事業担当者は、コーディネーターと常に連携を取りながら、各事業の進捗状況や活動内容の現状把握をし、コーディネーター・日本語指導者・講師と関係諸機関の間を取り持つ調整役として事業全体の運営をおこなった。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞

取組1	取組の名称		～ほつとにほんご・若者のたまりば～若者×いばしょ									
	取組の目標		1) 安定的に実施する取組を「居場所」としながら、安心して日本語で会話を楽しんだり、生活相談や将来設計についての相談ができる。 2) 表現活動や料理などのアクティビティを通じた生活日本語の習得と、参加者同士の交流の場づくりをおこなう。 3) 取組全体を通じて、ニーズはあるがつながりのない若者層の把握、参加のきっかけをつくる。									
	取組の内容		本取組は、2016年度の「とびだすにほんご～若者×いばしょ」を発展させたものとして、若者たちの日本語での語りと交流・つながりの場を若者のニーズに即した形で提供した。 なお、2016年度は各活動を個別のものとして実施したが、一人の参加者が多様なニーズを抱えているケースが多くみられたため、2017年度は、①、②の活動を定期的に同時開催する。③の活動については、必要に応じて①②と組み合わせる形で開催した。 【若者のたまりば】 ①にほんごde語ろう(30回): 若者が参加しやすい雰囲気の中で継続的な「居場所」において、参加者が安心して日本語を活用することができる場を提供した。生活に密着した表現や若者言葉などをとりいれながら、感情表現や意思表示などが自分の言葉でできる／相手の言葉を聴くことができる関係づくりを目指した。その際に、朗読など様々な手法を用いることで、参加者自身の新たな可能性を引き出すような工夫を凝らした。 ②にほんごde相談(30回): 日々の生活のさまざまなシーンで登場するささいなことから疑問・質問を日本語でおこないあえる場を設けることで、日常生活の生きづらさを解消し、いざというときに頼ることのできる仲間との関係づくりの構築を行った。内容としては、仕事で使う敬語表現や労働環境についての相談、漢字表現や行政からの書類についての相談などを想定し、講師・コーディネーターなどの専門スタッフを中心に、参加者同士でも相談にのり合える関係を構築した。									
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当なし									
	取組による体制整備		昨年度までの取組の蓄積を活用しながら、地域の市民団体・NPOや商店会、中間支援組織、行政関連部局、大学関係者など専門家らと連携し、若者の日本語教育や生活日本語のニーズに応じながら柔軟に対応し、地域で包括的に若者を支援するゆるやかなネットワークを形成した。実際の活動に加え、地域全体で若者の日本語学習支援を支える意識を高めた。									
	取組による日本語能力の向上		参加者が日本語や日本語表現を安心しておこなうための「場」づくりと、興味関心に沿った形でのアドバイスや知識を取り入れることのできる活動内容で、多様な日本語表現・発信、実現することが可能となった。学校現場や職場では実現しにくい日本語習得が実現され、今後の日本語学習への一層のモチベーションへとつながった。									
	参加対象者		外国にルーツをもつ若者				参加者数 (内 外国人数)		25人 (25人)			
	広報及び募集方法		協会ホームページ、Facebookなどのソーシャルメディア、チラシ、近隣学校機関からの紹介、市町部局からの紹介、豊中市広報誌、市内公共施設へのチラシの配布など									
	開催時間数		総時間 187 時間(空白地域 時間)									
	主な連携・協働先		近隣高等学校、夜間中学校、若者サポートステーション、教育委員会、地域若者支援NPO、地域市民団体、商店会、青年会議所									
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
		4			2	9	2	1				
		イギリス(1人)、アメリカ(2人)、フランス(1人)、ペルー(1人)、インド(1人)、パキスタン(1人)、										
実施内容												
にほんごde語ろう												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名	補助者名		
1	平成29年6月18日 (日)17:00～20:00	3	とよなか国際交流センター	2	料理の日本語	肉豆腐づくりを通して調理に必要な日本語を学び、使用した。			金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)			
2	平成29年6月25日 (日)17:00～20:00	3	とよなか国際交流センター	2	音読会 星の王子さま	星の王子様の朗読を通して日本語の表現について学んだ。			金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)			
3	平成29年7月2日 (日)17:00～20:00	3	とよなか国際交流センター	3	音読会 星の王子さま	星の王子様の朗読を通して日本語の表現について学んだ。			黒島トーマス友基(CDN兼務)			
4	平成29年7月9日 (日)17:00～20:00	3	とよなか国際交流センター	5	料理の日本語	パッタイラーメンづくりを通して調理に必要な日本語を学び、使用した。			金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)			

5	平成29年7月16日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	夏の日本語 料理の日本語	夏にまつわる日本語を学びながら、 冷麺づくりを通して調理に必要な日本 語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
6	平成29年7月23日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	料理の日本語	パンケーキづくりを通してお菓子作り に必要な日本語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
7	平成29年7月30日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	料理の日本語	冷やし中華を作りながら調理に必要 な日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
8	平成29年8月6日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	夏の日本語 料理の日本語	夏の自身の思い出について参加者同 士で日本語で共有し、表現方法を学 んだ。焼うどんづくりを通して調理に 必要な日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
9	平成29年8月13日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	夏の日本語 料理の日本語	夏になぜカレーを食べるのか自身の 考えを日本語で共有し、表現方法を 学んだ。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
10	平成29年8月20日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	夏の日本語 料理の日本語	“さっぱりした味”“優しい味”などの表 現を学び、実際にさっぱりした塩ラー メンを作り日本語を学んだ。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
11	平成29年8月27日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	日本語で発想 料理の日本語	残り物を眺めながら日本語でアイデ アを出しあい表現の学習をした。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
12	平成29年9月9日 (日) 11:00~16:30	5.5	とよなか国際 交流センター	1	表現！日本語で発 信しよう！	コーヒーマシンの淹れ方について調理に必 要な日本語を学び、センターを訪れた 多くの人に向け発信した。	金和永(CDN兼 務)	
13	平成29年9月10日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	料理の日本語	チャーハンづくりを通して調理に必要 な日本語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
14	平成29年9月24日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	4	秋の日本語 料理の日本語	季節の変化についての日本語の表現 を学んだ。また焼うどんづくりを通して 調理に必要な日本語を学び、使用し た。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
15	平成29年10月1日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	秋の日本語 料理の日本語	季節の変化についての日本語の表現 を学んだ。またお好み焼きづくりを通 して調理に必要な日本語を学び、使 用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
16	平成29年10月8日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	4	秋の日本語 料理の日本語	季節の変化についての日本語の表現 を学んだ。また焼うどんづくりを通して 調理に必要な日本語を学び、使用し た。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
17	平成29年10月15日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	4	料理の日本語	前回の焼うどんの味を日本語で振り 返りながら表現の学習をした。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
18	平成29年11月12日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	5	冬の日本語 料理の日本語	冬の遊びや楽しみ方にまつわる表現 を学んだ。 焼きめしづくりを通して調理に必要な 日本語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
19	平成29年11月19日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	ニュースの日本語 料理の日本語	日本のニュースの表現を学習した。また 焼きめしづくりを通して調理に必要 な日本語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
20	平成29年11月26日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	ニュースの日本語 料理の日本語	日本のニュースの表現を学習した。また 焼うどんづくりを通して調理に必要 な日本語を学び、使用した。	黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
21	平成29年12月10日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	日本語で表現！私 たちの冬！ 料理の日本語	自分たちの国の冬の遊びや楽しみ方 を日本語で発表し表現を学んだ。 焼きめしづくりを通して調理に必要な 日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
22	平成29年12月17日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	年末の日本語 料理の日本語	年末に関わる日本語を学んだ。また マカロンづくりを通して調理に必要な 日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
23	平成29年12月24日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	日本語で表現！私 たちのクリスマス！	自分たちの国のクリスマスと日本のク リスマスの違いを日本語で表現しな がらクリスマスに関わる日本語を学ん だ。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	
24	平成30年1月14日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	お正月の日本語 料理の日本語	自分たちが感じた日本のお正月につ いて日本語で表現し学んだ。また焼 うどんづくりを通して調理に必要な日 本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼 務) 黒島トーマス友 基(CDN兼務)	

25	平成30年1月21日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	日本語で表現！お正月	自分たちの国の正月と日本の正月の違いを日本語で表現しながら正月に関わる日本語を学んだ。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
26	平成30年1月28日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	バレンタインの日本語 料理の日本語	バレンタインに関わる日本語を学んだ。またやきうどんづくりを通して調理に必要な日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
27	平成30年2月11日 (日)17:00~21:00	4	JUSO Coworking	2	日本語で表現！私たちのバレンタイン！	自分たちの国のバレンタインと日本のバレンタインの違いを日本語で表現しながらバレンタインに関わる日本語を学んだ。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
28	平成30年2月18日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	こころの日本語 焼きうどんを作ろう	“気持ち”に関わる日本語の表現を学習した。また焼うどんづくりを通して調理に必要な日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
29	平成30年2月25日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	7	こころの日本語	宮田隼さんをお招きして気持ちについての表現を学び、自分たちの気持ちも日本語で表現し学んだ。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務) 宮田隼	
30	平成30年3月18日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	焼きうどんを作ろう	焼うどんづくりを通して調理に必要な日本語を学び、使用した。	金和永(CDN兼務) 黒島トーマス友基(CDN兼務)	

93.5

150

にほんごde相談								
1	平成29年6月18日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごとを日本語で話そう 駅編	自身が生活する上で訪れる駅での課題や困りごとについて相談した。	垣花慧	
2	平成29年6月25日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごとを日本語で話そう スーパー編	自身が生活する上で訪れるスーパーマーケットでの課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
3	平成29年7月2日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごとを日本語で話そう 銀行編	自身が生活する上で訪れる銀行での課題や困りごとについての相談した。	植木美恵子	垣花慧
4	平成29年7月9日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごとを日本語で話そう 役所編	自身が生活する上で訪れる市役所での課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
5	平成29年7月16日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごとを日本語で話そう 携帯電話編	自身が生活する上で欠かせない携帯電話についての課題や困りごとについて相談した。	垣花慧	
6	平成29年7月23日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごとを日本語で話そう 市場編	自身が生活する上で訪れる市場での課題や困りごとについての相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
7	平成29年7月30日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごとを日本語で話そう ご近所編	自身が生活する上で訪れる場所での課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
8	平成29年8月6日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごとを日本語で話そう 海編	夏に育海での課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
9	平成29年8月13日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごとを日本語で話そう ショッピングモール編	自身が生活する上で訪れるショッピングモールでの課題や困りごとについて相談した。	垣花慧	
10	平成29年8月20日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごとを日本語で話そう 生活費編	自身が生活する上でのお金についての課題や困りごとについて相談した。	垣花慧	
11	平成29年8月27日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごとを日本語で話そう 交通ルール編	交通ルールについて相談した。	垣花慧	
12	平成29年9月9日 (土)11:00~16:30	5.5	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごとを日本語で話そう 働く編①	自身が生活する上で必要な働くことについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
13	平成29年9月10日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごとを日本語で話そう 働く編②	自身が生活する上で必要な働くことについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧

14	平成29年9月24日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごと を日本語で話そう 働く編③	自身が生活する上で必要な働くことについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
15	平成29年10月1日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう 働く編④	自身が生活する上で必要な働くことについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
16	平成29年10月8日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	4	生活の中の困りごと を日本語で話そう 働く編⑤	自身が生活する上で必要な働くことについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
17	平成29年10月15日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごと を日本語で話そう 人付き合い編	生活の中の人付き合いについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
18	平成29年11月12日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう 人付き合い編①	生活の中の人付き合いについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
19	平成29年11月19日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	4	生活の中の困りごと を日本語で話そう 人付き合い編②	生活の中の人付き合いについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
20	平成29年11月26日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう 人付き合い編③	生活の中の人付き合いについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	垣花慧
21	平成29年12月10日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごと を日本語で話そう 人付き合い編④	生活の中の人付き合いについての課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	
22	平成29年12月17日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごと を日本語で話そう 就職編	就職についての困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	
23	平成29年12月24日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	3	生活の中の困りごと を日本語で話そう あそび編①	遊びも含めた自身の日常についての課題や困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	
24	平成30年1月14日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう あそび編②	遊びも含めた自身の日常についての課題や困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	
25	平成30年1月21日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう あそび編③	自身が生活する上で訪れる場所での課題や困りごとについての相談した。	ラボルテ雅樹	
26	平成30年1月28日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごと を日本語で話そう 商店街編①	自身が生活する上で訪れる商店街での課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	
27	平成30年2月11日 (日)17:00~21:00	4	JUSO Coworking	2	生活の中の困りごと を日本語で話そう 商店街編②	自身が生活する上で訪れる商店街での課題や困りごとについて相談した。	ラボルテ雅樹	
28	平成30年2月18日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごと を日本語で話そう 将来編①	将来についての課題や困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	
29	平成30年2月25日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごと を日本語で話そう 将来編②	将来についての課題や困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	
30	平成30年3月18日 (日)17:00~20:00	3	とよなか国際 交流センター	1	生活の中の困りごと を日本語で話そう 新生活編	春からの新生活についての課題や困りごとを相談した。	ラボルテ雅樹	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第12回 平成29年9月9日】にほんごde話そう“表現！日本語で発信しよう！”&にほんごde相談“生活の中の困りごとを日本語で話そう働く編”
にほんごde話そう“表現！日本語で発信しよう！”では、コーヒの淹れ方や調理に必要な日本語を学び、とよなか国際交流センターで行われていた国際交流フェスタの参加者に向けて日本語で発信した。学習者は午前中にコーヒの淹れ方に関する日本語を実際にコーヒを淹れながら学習した。午後からは学習者自身がコーヒを淹れながら、その方法を市民に向けて日本語で発信した。「これはどこのコーヒ？」「どうやって淹れるとおいしいの？」など、不規則に出される質問に日本語で答えていた。最初は緊張していた学習者も、最後には自信を持って受け答えが出来るようになっていた。
にほんごde相談“生活の中の困りごとを日本語で話そう働く編”では、学習者とともに淹れたてのコーヒを飲みながら『働く』ことについて日本語で話した。普段の自分の仕事や、これから就きたい仕事などについて、参加者は自分自身の言葉で表現をし、また他の参加者の言葉に耳を傾けコミュニケーションをとりながら日本語を学習した。



○取組事例②

【第16回 平成29年10月8日】にほんごde語ろう“秋の日本語、料理の日本語”
夏の暑さが和らぎ朝夕が過ごしやすくなってきたこともあり、『秋』についての日本語を学んだ。学習者はそれぞれの秋のイメージを日本語で発表した。また他の学習者の発表を聞いて感じたことや分かりづかったことなどを日本語で尋ね共有し、コミュニケーションをとりながら日本語学習を行った。
また、秋の食材を日本語で出し合い、その食材を使って焼うどんを作った。「秋といえばサンマ」という意見や「焼うどんにサンマは入らない」という意見をお互いの共通語である日本語で伝えながら日本語の表現について学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

・一年を通じた講座の中で、学習者と講師、安心安全な関係が築かれた。特に学習者同士での関係が築かれたことで意欲的に日本語に取り組めた。
・参加者自身が自発的に学習することができ、継続して学習できるようになった。
・日本語以外にも対話を通して学習者自身に関する事など学ぶことが多かった。「教える」「教えられる」でなく「学び合う」関係が出来た。
・普段の生活で困っている事や工夫していることなども共有できた。
・様々な背景をもつ参加者がいる活動の中で、優しい日本語でのコミュニケーションがとれた。
・参加者それぞれが特技を生かせる活動にする事ができ、参加者のエンパワメントにつながる活動にする事ができた。
・参加者の最近の状況や悩みをきくことをこころがけ、参加者の変化や会話に気を配った。
・参加者が普段話すことが出来ないことが話せるようになる場所を目指し、様々な話題をテーマにあげ、参加者同士で共有した。
・奨学金のしくみなど情報が少ないために次のステップについて困っている若者や、日常会話以外では日本語支援の提供など、本人のニーズにしっかりと気付きながら、支援につなげることができた。
・学習者自身が日本語サポートをより“居場所”と認識することができ、日本語の支援としてだけでなく、帰ってくる場所、相談できる場所と考えられるようになった。
(振り返り会にて検証)

(3) 今後の改善点について

たまりば&相談

・広報の充実
・参加者のニーズをより広く把握するように努めたい。
活動内で生じている問題について、参加者から聞く回路がすくなかった。
・風通しのよいコミュニケーションがとれず、一部のコーディネータの負担が大きくなってしまった。
・イベントなど、若者自身が関心を表現したり、活動として形にする機会が少なかった。
(振り返り会により検証)

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		～つちかうにほんご・地域連携～若者×ちいき						
	取組の目標		1)学習意欲はあるものの体制が整わないために、日本語教育の機会に恵まれない外国人の若者にたいして体系的な日本語教育をおこなう。特に、日本語教育についての高いニーズがある全日制高校以外(定時制高校、通信制高校、夜間中学校など)に通う外国人の若者やその後の進路未決定者などを念頭に、関係機関との連携を取りながら地域ぐるみの支援体制を整備する。 2)取組を通じて培った日本語を、地域活動や学校行事などの場面で活用し、日本語力の向上の成果を参加者自身の実感をとまなう形で地域や参加者自身に還元する。 3)高校生世代の若者への日本語支援、進路保障を念頭においたネットワークを形成し、課題・ニーズの把握や活動への参加を促す。						
	取組の内容		本取組は、2016年度に開始した「つちかうにほんごサポート」をより効果的に行うものとして実施するものである。「つちかうにほんごサポート」では、ニーズを抱えているかもしれない高校生とのつながりが十分でない・学校側のニーズが把握できないという課題があった。より多くの若者に取組が届くよう、学校とさらに連携したサポートが必要であった。そこで、新たな日本語支援体制のもとでは、学校が把握している若者の現状やニーズなどの情報共有を基に、学校内でのサポートの実施やより若者の生活状況に即した日本語支援の枠組みの体制づくりも視野にいれ、若者に必要な日本語力を培った。 さらに、全日制の高校やフリーター・ひきこもり・無業者などを含む、すべての若者世代の高校生に向けた、包括的な日本語教育体制や生活日本語の習得状況について、学校や行政関係者、地域で日本語支援を営む市民団体などと共有するネットワークをつくり、日本語教育の体制整備を進めた。 【わかものにほんごサポート】 週1回、2時間をめどに、全日制以外の高校等(定時制高校、通信制高校、夜間中学校、など)に通う若者を対象に、継続的な日本語の支援を行った。参加者自らが設定した目標に向けて、日本語指導者と学校や地域で若者本人とかかわりをもつ教員・団体職員など複数の支援者で、参加者のニーズに応じた日本語の習得を目指した。外国人の若者にとって、ピア(仲間)やロールモデル(目標となる人)としての外国人の若者、もしくはできるだけ参加者の母語を解する日本人を日本語指導者とし、母語で質問や相談ができるなど、日本語学習への意欲を保ち続けられるような環境を設けた。参加者の参加しやすさなどに配慮し、適宜、学校や地域の公共施設などを利用して継続的な支援につなげた。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当なし						
	取組による体制整備		外国人の若者が所属する学校機関や地域の若者支援NPO(引きこもりなどの若者支援団体、若者サポートステーションなど)、豊中市教育委員会生涯学習部門、青少年関係部門、外国人教育部門などと連携を図りながら、若者の現状やニーズを把握し、長期的で包括的な地域若者支援ネットワークを現場レベルで構築した。さらに、サポートNetworkにおいては、学校における日本語ニーズの把握をおこなうとともに、中退者や就労中の若者についても地域団体や企業などと連携して、支援の必要性をさぐった。						
	取組による日本語能力の向上		若者のニーズに応じた内容への指導を中心に、コミュニケーションや対話も交えた生活に役立つ日本語指導を行った。定期的で恒常的な学習の場があることで、日本語学習を習慣づけ、自律的な日本語学習につなげる。学校や地域若者支援団体との連携を生かし、成果発表の場を参加者のかかわる多様な場面で設けた。						
	参加対象者		外国にルーツをもつ若者(わかものにほんごサポート)／外国人の若者が所属する学校・若者支援団体関係者など				参加者数 (内 外国人数)	10人 (6 人)	
	広報及び募集方法		学校や地域若者支援NPO・行政を通じた紹介やチラシなどの配布、協会ホームページ、Facebookなどのソーシャルメディア、チラシ、豊中市広報誌を通じた広報など						
	開催時間数		総時間 38.75 時間(空白地域時間)						
	主な連携・協働先		豊中市、豊中市教育委員会、大阪府教育庁、大阪府立桜塚高等学校、豊中市立第四中学校夜間学級、若者サポートステーション、地域若者支援NPOなど						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		2							3
		イギリス(1人)							
実施内容									
わかものにほんごサポート									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年10月8日 (日)15:00～17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
2	平成29年10月15日 (日)15:00～17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
3	平成29年11月12日 (日)15:00～17:00	1	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
4	平成29年11月19日 (日)15:00～17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
5	平成29年11月26日 (日)15:00～17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
6	平成29年12月10日 (日)15:00～17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習		藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	

7	平成29年12月16日 (土) 11:30~22:00	6.75	豊中市立青少年自然の家わっぱる	3	自然の中の日本語	日本の自然や、自然にまつわる言葉を学習した。また施設案内など普段聞きなれない日本語も学習した	山根絵美 黒島トーマス友基(CDN兼務)	周 泳琳 (通訳)
8	平成29年12月17日 (日) 8:00~12:30	4.5	豊中市立青少年自然の家わっぱる	3	自然の中の日本語	実際に山の中に入り自信の興味関心のあるものを見つけ、日本語で共有した。	山根絵美 黒島トーマス友基(CDN兼務)	周 泳琳 (通訳)
9	平成29年12月17日 (日) 15:00~17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
10	平成30年1月9日 (火) 15:00~17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
11	平成30年1月26日 (金) 15:00~17:00	2	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
12	平成30年2月11日 (日) 15:00~17:00	1.5	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
13	平成30年2月18日 (日) 14:00~17:00	3	とよなか国際交流センター	1	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	黒島トーマス友基(コーディネーター兼務)	
14	平成30年2月25日 (日) 15:00~17:00	3	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	
15	平成30年3月4日 (日) 15:00~17:00	3	とよなか国際交流センター	2	日常生活の中の漢字	日常生活の中で身近な漢字の学習	藤下功一 黒島トーマス友基(CDN兼務)	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第7回 平成29年12月16日】

豊中市立青少年自然の家にて『自然の中の日本語』をテーマに日本語学習を行った。学習者は普段楽しんでいる豊中を飛び出し、大阪府能勢町の山奥で、自然に触れながら感じたことを日本語で表現したり、他の学習者の感じたことを聞き取りコミュニケーションをとり、日本語を学んだ。また開催場所である施設の説明や利用上の注意点なども日本語で聞き取り学習した。聞き取れなかった部分、分かりづらい部分を繰り返し聞いたり、講師と共に学習したりしながら日本語を学んだ。普段なかなか話す機会の少なかった学習者同士が講座の中のやり取りを通じてコミュニケーションをとり、講座がすすみ関係性が深まるにつれ、学習者はより積極的に自身の思いなどを日本語で発言するようになり、意欲的に日本語学習に取り組むことができた。



○取組事例②

【第5回平成29年11月26日】

参加者が関心を持っていたドリルを使い、日本語を学習した。普段は講師が準備した教材を使っていたが、自身が関心のあるドリルを使うことで積極的に学習することができた。また講師も初めて見る教材で、楽しみながら学ぶということの大切さを改めて認識した。また学習者は取り組み以外の時間でもこのドリルを手にするようになり、日常的に学習する習慣が付き、学習スピードが上がった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・手厚い人員配置により、学習者のニーズに素早く対応することが出来た。
- ・学習者自身のモチベーションが上がるようにコミュニケーションをとりながら学習を進めることが出来た。
- ・学習者自身が持ってきたテキストや本などを活用することで、学習者の生活に直結した学習が出来た。
- ・学習者それぞれの学習スピードにあわせて学習することが出来た。
- ・野外での活動などを通して学習者が普段の教室では見せる事のない面などもみれた。
- ・学習者との会話から取組1や他の事業につなげるなど、学習者を地域で包括的にサポートすることができた。

(3) 今後の改善点について

- ・広報の充実を図り、より広く参加者を募りたい。
- ・指導者同士の意見や情報を共有する時間を確保する。
- ・指導方法の検討をする時間が十分ではなかった。
- ・他の取り組みなどとの合同のイベントなどを設け、学習者だけでなく指導者も行き来できるような活動にしていきたい。

＜取組3＞											
取組3	取組の名称		～つなげるにほんご・人材養成～子ども・若者日本語支援ボランティア養成講座								
	取組の目標		1)外国人の若者の支援活動に意欲をもって継続的に関わるることのできる次世代の人材を育成する。 2)ポスト若者世代の子どもを含む、子ども・若者に対し、学校や社会生活の場で必要なリテラシー能力を培うための体系的な日本語指導実践を行う指導者の養成を行う。								
	取組の内容		【ボランティア・コーディネーター養成講座】 外国人支援団体、若者支援組織、地域での対話や居場所の取り組みを行っている団体などの専門機関、および外国人の若者当事者を講師として招き、外国人の若者が直面している課題やその支援の実際について多角的な視点を提供する講義やディスカッションを交えながら考える講座を開催した。また、支援機関への視察見学などもプログラムに盛り込み、より具体的なイメージを持ちながら活動にあたるようにした。講座を通じて、大阪・豊中の地域性をふまえた独自の取り組みについて、参加者同士の対話を通じてアイデアを出し合っていくような参加型のプログラムを実施した。参加者については、ピア(仲間)やロールモデル(目標となる人)としての外国人当事者や近隣住民への積極的な参加を促し、仲間や隣人としての外国人の若者を地域で支える人づくりを目指した。								
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当なし								
	取組による体制整備		各養成講座において、近隣地域で活動する若者支援団体や日本語支援についての専門家を講座の指導者に招き、地域で日本語活動に関わる人たちとのゆるやかなネットワークをつくるきっかけとした。さらに、大学関係機関や市民団体、市内の公共施設などに呼びかけ、講座への参加者を募ることで市民レベルの日本語教育活動の担い手を増やした。また、各地の取組の視察を行うことで、自治体レベルを超えた広域的な日本語教育支援の連携体制を整備した。								
	取組による日本語能力の向上		取組参加者は、主として日本語をある程度習得した外国人もしくは日本人。外国人当事者が活動の担い手として、ボランティアや日本語指導、活動コーディネーターの養成講座を受講し、活動運営についての専門的な日本語や行政、法律用語など、市民活動に必要な専門的な日本語の習得した。また地域市民が養成講座を受講することで、日本語習得の実態や生活背景などについての専門知識をもったボランティア・コーディネーター、日本語指導者の人材養成をおこない、今後の外国人の生活日本語教育についての環境整備の一役を担った。								
	参加対象者		外国にルーツをもつ若者、地域市民					参加者数 (内 外国人数)		94人 (14 人)	
	広報及び募集方法		協会ホームページ、Faebokなどのソーシャルメディア、チラシ、近隣学校機関からの紹介、市町部局からの紹介、豊中市広報誌、市内公共施設へのチラシの配布など								
	開催時間数		総時間 13.25 時間(空白地域時間)								
	主な連携・協働先		地域市民団体、若者支援NPO、地域日本語教室、地域公共施設、近隣大学								
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国		ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		4				4	3				
		ペルー1人、フランス1人、アメリカ1人、									
実施内容											
ボランティア・コーディネーター養成講座											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名	補助者名	
1	平成30年1月14日 (日) 14:00～17:00	3	とよなか国際交流センター	9	パーソナルスペース	自身と参加者が共に心地よい活動するにはどうすれば良いかをワークショップも交えて行った			栗本敦子	黒島トーマス 友基(CDN兼務) 金和永(CDN兼務) ラボルテ雅樹	
2	平成30年2月16日 (日) 18:00～20:15	2.25	とよなか国際交流センター	35	日韓の表現の違い	日本と韓国における表現を実際の映像や音楽などを通じて検証し、日本と韓国の違いや日本の特性について考えた			岡本有佳	黒島トーマス 友基(CDN兼務)	
3	平成30年2月18日 (日) 14:00～17:00	3	とよなか国際交流センター	10	思いを伝えよう感じよう	相手の思いや自身の思いを伝えることの重要性をワークショップも交えて行った			栗本敦子	黒島トーマス 友基(CDN兼務) 金和永(CDN兼務) ラボルテ雅樹	

4	平成30年2月26日 (日) 14:00～16:00	2	とよなか国際 交流センター	35	居場所の可能性	居場所づくりの実践者の報告を聞き、 学習者が学びやすい場所になっている かを考えた	宮田隼	黒島トーマス 友基(CDN兼 務) 小林豊
5	平成30年3月4日 (日) 14:00～17:00	3	とよなか国際 交流センター	5	安心社会と信頼社 会	活動の在り方、方向性などを“安心” と“信頼”に着目して参加者同士で ワークショップも交えて考えた	栗本敦子	黒島トーマス 友基(CDN兼 務) ラボルテ雅樹

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年2月26日】居場所の可能性(講師宮田隼さん)

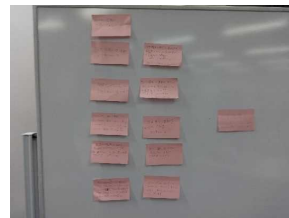
富山県高岡市のさまざまな人が集まる「コミュニティハウスひとのま」代表の宮田隼さんをお招きし、なぜ「居場所」が必要とされているのか？「支援者」に求められる姿勢や視点は何か？について学んだ。「支援をしてあげる」のではなく「そばにいて一緒に考える」姿勢で、不登校の子どもや、行き場のないおとな、いろいろな生きづらさを抱える人たちを受け入れている宮田さんの活動は福祉の分野でも注目されており、参加者は分野や領域に捕らわれない宮田さんのお話を聞き、居場所の重要性とその在り方を考えることができた。



○取組事例②

【第2回 平成30年2月16日】日韓表現の違い(講師岡本有佳)

韓国と日本の表現活動取材し、支援している岡本有佳さんをお招きし、日韓の表現の違いについて学び、日本の特徴を学んだ。韓国で2016年から2017年にかけて行われた市民運動を紹介しながら、市民による表現活動の特徴を押さえ、日本での表現活動との違いについて学んだ。表現活動においては「言葉」も重要な役割を担い、言葉で共有することの重要性を学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・幅広い世代の参加があり、質疑応答や参加者同士のやり取りも幅広い価値観を基に繰り広げられた。
 - ・講師から参加者への一方的な取り組みにならず、参加者が思いを共有できる取組になった。
 - ・普段さまざまな活動をしている参加者同士が知り合うことで、地域に新しいつながりをもたらした。
 - ・他の取り組みに活かすことが非常に多かった。
- (感想、振り返りにて検証)

(3) 今後の改善点について

- ・話が盛り上がり予定していた時間をオーバーしてしまった。今後は時間の管理を徹底する。
- ・当日の段取りなど、講師とのやり取りが不十分なところがあった。具体的には講師と打合せの時間を十分確保することが出来ず、当日あわただしく準備に追われる回があった。

＜取組4＞										
取組4	取組の名称		外国にルーツをもつ若者主催！ WAKAMONOフェスタ2017							
	取組の目標		1) 取組1～3の活動内容報告・成果の発信を通じて、地域市民及び行政関係者、まだつながりを持っていない外国人の若者当事者などへの活動周知と課題の共有を行う。 2) 若者自身が企画運営を行うことで、取組で習得した日本語を活用しながら、地域社会への参加を目指す。							
	取組の内容		【WAKAMONOフェスタ2017】 取組みの集大成として、取組内で実施してきた様々な活動の報告および、発表会形式の催しを企画。企画・運営は、主に取組1・取組2の参加者が主体となって取り組むことが出来るよう、コーディネーターを中心にスタッフ体制を整えた。取組の開催にあたっては、地域の人々に協力をあおぎながら催しを企画運営し、取組で習得した日本語を活用しながら、地域社会への参加をめざした。フェスタのプログラム内容には、若者が親しみやすいコンテンツもとり入れ、まだつながりを持っていない外国人の若者当事者への活動周知も目的の一つとした。 また、取組の内容・成果や課題などの発信を通じて、地域市民および若者関係団体・地域の日本語教室などへ向け、外国人の若者が抱える日本語教育課題についての理解と協力を促した。 〔プログラム内容〕 ○普段の活動のまとめ： 取組1,2,3の一年間の活動について、各講座の参加者が主体となって、講座の内容や学んだこと、今後活動に関わっていくにあたっての抱負など模造紙にまとめ、フェスタに参加した人へ取組の周知を行った。 ○「若者のたまりば」ワークショップ“わかものにとって大切なもの” 活動に参加した若者たちと地域の人とのワークショップを行い、なぜ若者にはたまりばの形での日本語学習支援が必要かということについて日本語で地域の人に発表した。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当なし							
	取組による体制整備		本取組は、他の取組の活動成果の報告や発表の場と位置付け、日本語教育の必要性について周知広報を行うと同時に、これまで各取組に参加した地域市民や関係諸団体などへの協力を仰ぎ、催しの企画や運営を通じて、外国人の日本語支援についての連携体制をより深めた。							
	取組による日本語能力の向上		企画運営を主として担う外国人の若者については、取組を通じて取得した日本語の実践的な活用と、催しの企画運営を担う中で新たに運営や企画、司会や発表用の文章などに使用する日本語を習得した。							
	参加対象者		外国にルーツをもつ若者、日本語教育や若者支援に関わる団体関係者、地域市民	参加者数 (内 外国人数)		38人 (11人)				
	広報及び募集方法		協会ホームページ、Faebookなどのソーシャルメディア、チラシ、近隣学校機関からの紹介、市町部局からの紹介、豊中市広報誌、市内公共施設へのチラシの配布など							
	開催時間数		総時間 4 時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		地域市民団体、若者支援NPO							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		1			1	3				
		フランス1人、								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成30年3月11日 (日)17:00～21:00	4	庄内銀座通り レンタルスペース	8	若者ができること	豊中市庄内地域において外国にルーツを持つ若者が本事業で身につけた力を発信しながら、何が出来るかを地域で活動する人々と共に考え、ワークショップを行った。		黒島トーマス友基 (CDN兼務) ラボルテ雅樹	礪見あいか	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回平成30年3月11日】

外国にルーツを持つ若者が普段取組で行ってきたことを発信した。本事業で培ってきたことを基に、若者が豊中市庄内地域においてに何ができるかを地域で活動する人々と共に考え、ワークショップを行った。ワークショップでは「自分にとっての居場所とは？」についてまず参加者がそれぞれ出し合い、それを共有した。つぎに「行きたくなる居場所」や「行けなくなった、なくなってしまった居場所」についても共有し、最後は「明日手に入る居場所があるとしたらどんな居場所が良い？」ということを共有し合った。出てきた内容をあらためて日本語でまとめながら、それを地域の方々に共有し、意見をいただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・参加者が講師と共にリラックスしながらイベントをすすめられるように心がけた。
- ・参加者がざっくばらんに自身の経験を話すことが出来、有意義なワークショップになり終始良好な雰囲気にする事が出来た。
- ・参加者が積極的に日本語で表現することができた。
- ・参加者が出した意見を地域の人に知ってもらい、また地域の人々の目線からの意見を出してもらい共有することが出来た。
- ・地域で孤立しがちな外国にルーツを持つ若者が地域住民と繋がる事が出来た。

(3) 今後の改善点について

- ・広報に力をいれ参加者を増やしたい。
- ・より多くの地域住民にも参加してもらい、若者が日常生活でも地域と繋がるきっかけになりたい。
- ・今回出された意見を基に他の取り組みや次年度のイベントに活かしたい。
- ・若者自身が企画した出し物などをさらに増やし、若者のおエンパワにつなげ日常や学習などの意欲へとつなげたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・外国人の若者に対する日本語学習支援を行い、生活の向上、自己実現及び地域社会への参加を支援する。また、日本語学習支援を担う人材の育成、関係機関・団体の間でのネットワークを形成することで、安定的・継続的な取組の実施環境を作り、日本語教育の体制整備を進める。

さらに具体的な目的としては以下の四つを掲げている。

1)外国人の若者が、安心して自らの生活上のニーズ(日本語・生活・労働など)を語り合い、相談できる「いばしょ(居場所)」を提供し、生活や自己表現に必要な日本語力を身につける。

2)(1)で身につけた日本語力を活用し、若者自身が地域社会とのつながりをつくる活動を企画・実施することで、自主的・自立的な地域社会への参加を促す。

3)ポスト若者世代である外国人の子どもを含む次世代に対する基礎的な日本語指導を体系的に行う人材養成、および、外国人の若者の特徴や社会課題をふまえて活動にあたるコーディネーター・サポーターの育成を行う。

4)外国人の若者世代が安心して社会生活を送ることができるよう、小中高校・大学、地域NPO、日本語指導者グループ、当事者グループなどからなる地域ネットワークを形成する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1)に関しては、外国人の若者の参加者から「自身の日常の事から将来の事など幅広い話ができる」という意見が出ており、安心して語り合える、相談できる「いばしょ(居場所)」が提供できていた。また参加者が回を経るごとににより自発的に学習に取り組むようになったことで自分の生活や自己表現に必要な日本語を学ぶことが出来た。

2)に関しては活動の中で身につけた日本語力を活用し、地域住民に発信(取組1平成29年9月9日など)したり若者自身が企画・実施した活動(取組4)などで地域住民からも意見をもらうなど、活動によって地域社会とつながることが出来た。

3)に関しては幅広い分野で活動されている講師を各地からお招きし、様々な角度から“外国人”“居場所”“日本語”“支援”などについて語っていただく研修を行うことで、参加者の知識や意識が向上した。

4)に関しては参加者の状況である外国人の若者世代が安心して社会生活を送ることができるよう、生活のことや将来のことなどで個別に関係機関などと連携し、対応した。今後、地域に根差したネットワークを体系的に作っていく足掛かりができた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・取組1と取組2で得た参加者の情報を基に、地域の取組みなどにつないだ。結果参加者を本事業だけでなく、地域で包括的にサポートすることが出来、参加者の安心に繋がった。その結果、本事業の取組みの学習にも以前よりも落ち着いて意欲的に参加することが出来た。

・また地域の取組みに参加者を繋ぐことで、地域からも本事業のことを参加者を通じて具体的に理解してもらうことが出来た。今後地域の取組みに繋がった外国人の若者を本事業に紹介してもらうことも期待できる。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・チラシの配布を積極的に行い、関係機関にも配架してもらったり個別で配布してもらうなどした。

・若者という特性を加味し、SNSで日々の活動報告をしたり、イベントページを立ち上げるなどした。

・取組4や取組1などを通じて参加者自らが“活動を見せる”という形で地域へ広報、発信を行った。

(5) 改善点、今後の課題について

・外国人の若者世代が安心して社会生活を送ることができるよう、地域ネットワークの形成を引き続き行う。

・参加者がより身近に思える日本語や、知っていたら便利な日本語など、よりニーズに合った学習を目指す。

・外国人の若者が地域と繋がるにはきっかけが必要である。きっかけを提供するとともに、そのきっかけがより効果的に機能するような仕掛けを地域住民と共に考えていきたい。具体的には地域が主催するイベントへの積極的な参加、地域の多団体が運営する居場所や作業所などへの見学など、若者自身が実生活でも地域と繋がれるようにサポートしていく。

・また上記のことは地域住民にも当てはまる。地域住民にとっても若者と繋がるきっかけが必要で、外国人の若者と共にそのきっかけや仕掛けを考えていきたい。

(6) その他参考資料